

あわらし観光白書

平成27年実績

平成27年1年間にあわらしを訪れた観光客は、200万5900人（対前年比18万6700人、10・3%の増）で、20年ぶりに200万人を突破しました。このうち宿泊客は93万6600人（同11万6600人、14・2%の増）、日帰り客は106万9300人（同7万1000人、7%の増）で、特に日帰り客数は過去最高を記録しました。

関東からの宿泊客数が大幅増 平成26年との比較

あわらし温泉の宿泊客は92万4600人で、前年より14・4%の増加となりましたが、その内訳に変化が見られました。県内や北陸からの宿泊客数がほぼ前年並みであるのに対し、関東からの宿泊客数が65・4%増加。次いで関西、中京からの宿泊客数も増加しました。これは、平成27年3月に北陸新幹線が金沢まで開業し、首都圏から多くの観光客が北陸を訪れたこと、J・R各社や旅行会社等による全国的な北陸誘客キャンペーンによって、注目が北陸に集まったことなどが要因だと考えられます。

日帰り客数は過去最高

日帰り客は前年比7万1000人、7%増の106万9300人と過去最高を記録しました。

この要因としては、J・R芦原温泉駅西口のaキューブや吉崎の越前加賀県境

の館などの整備による施設の充実に加え、130日間にあわらし温泉開湯130周年祭やちやふるフェスティバルなど多彩なイベントの展開が奏功したものと考えられます。

全国へのPRが誘客に

北陸新幹線金沢開業が主に関東圏からの観光客の増加につながり、J・R各社や旅行会社などによる全国的な北陸

誘客キャンペーンとこれとタイアップして行ってきたプロモーション活動が、あわらしの知名度を向上させ、関西圏をはじめとする全国からの観光客の増加へと結び付いたものと考えられます。

今後の対応

全国的イベントを活用

北陸新幹線金沢開業以降、北陸には全国から注目が集まり、多くの観光客が訪れました。その追い風を受け、あわらしでも観光客入込数が増加しましたが、平成28年3月の北海道新幹線函館開業後は、その注目が北海道にシフトすることも予想されます。

しかし、中長期的に見ると、平成30年には福井国体の開催、平成35年には北陸新幹線の敦賀開業が決定しており、観光入込客増加の要因もまだ残されています。さらに、東京オリンピックといったビッグイベントも平成32年に控えており、インバウンドの可能性にも大いに期待できます。

「あわらし温泉」という県内随一の温泉地を有するあわらし市としては、引き続き、観光産業と他の産業との連携や、地域のブランド化を図るとともに、広域的な観光戦略も練りながら、魅力ある観光地づくりとさらなる地域の活性化を目指していきます。

広域連携で北陸の魅力発信を

広域的な観光戦略では、「越前加賀広域観光推進協議会」や「越前加賀宗文

化街道推進協議会」「福井坂井奥越広域観光推進協議会」「芦原温泉駅プロック観光開発協議会」などを通じて、近隣市町と連携した情報発信や誘客事業を実施しています。

各市町の強みである観光素材を生かし、交通アクセスなどを整備して結びつけることで、より魅力あるエリアとしての情報発信を行っていきとにも、エリア内への誘客を図っていきます。

また、あわらしと同様に「ちはやふる」の聖地である東京都府中市、滋賀県大津市とも広域連携を図り、同じコンテンツテーマのもと、誘客キャンペーンを実施し、全国的なPRを展開していきます。

インバウンドを推進

今後さらに増加が見込まれる訪日外国人観光客の誘致に向けては、「越前加賀インバウンド推進機構（仮称）」や「福井坂井奥越広域観光推進協議会」を通じて、現地におけるPR活動やイベント出展等を実施し、主に台湾など東・東南アジア方面からの誘客を図ります。

また、世界中から選手や観客が訪れる東京オリンピックを視野に入れ、パンフレットやWEBページ、プロモーションビデオの多言語化を実施するとともに、観光主要拠点のWiFiの整備、観光案内所における外国人の対応の充実など、受け入れ体制の強化に取り組みます。

問合せ 観光商工課

☎73・8029

波松小学校・吉崎小学校 たぐせんの思い出を ありがとう

波松小学校と吉崎小学校は、
3月末で休校します。

小学校を統合します

近年の少子化の進行に伴い、あわらし市でも児童・生徒数は年々減少し、学校の小規模化が進んでいます。これまでに北潟、波松、新郷、吉崎の4校では複式学級を編成しており、今後も現在の学校数を維持した場合には、学校としての機能の維持が難しくなってきています。

こうした現状を受け、子どもたちにとって望ましい教育環境を整備するために学校を統合することとし、平成25年から対象地区において統合の協議を進めてきました。

休校記念の歌を制作

波松小学校と吉崎小学校では、休校となる母校への惜別と感謝の気持ちを込めて、オリジナルの休校記念歌を制作しました。

その結果、平成28年4月から波松小学校は北潟小学校へ、吉崎小学校は細呂木小学校へ統合し、さらに平成29年4月に新郷小学校が本荘小学校へ統合することが決定しました。

11月から3カ月間にわたり金津創作の森が実施した出前授業で、入居作家で作曲家の山口紀子さんが作曲を指導。児童たちは山口さんからアドバイスを受けながらメロディや歌詞を考え、学校や友達との思い出がたくさんつまった休校記念歌をそれぞれ完成させました。

問合せ 教育総務課

☎73・80039

曲づくりが一つの思い出に

私自身、小学校5年生の時に休校を経験しているので、児童たちの思い出の曲になるように、学校の思い出などをギュギュッと詰めたものをみんなでつくり上げたいと思いました。

私の役目は、みんなの創作意欲を刺激して感情を引き出し、曲に反映させること。児童たちはとても素直で、一生懸命に取り組んでくれました。

両校とも『休校』というテーマは同じですが、学校ごとに雰囲気の違いが曲に仕上がっています。同じテーマでありながら、曲をつくる過程で両校のこの曲づくりに求めるものもそれぞれ違うと感じました。

自分たちの力で曲をつくり上げ、それをみんなで歌うといった過程を味わってもらい、曲だけではなく、この曲づくり自体がみんなの大切な思い出の一つになってくれたらうれしく思います。



金津創作の森 入居作家
山口 紀子さん
(作曲家/音楽監督)



①みんなと楽しくすごした毎日
たぐせんの思い出
②つらかったけどみんなで最後まで
きいたつらさな会など
③みんなでおもしろく食べた給食
時間
わすれられない朝ごはん入る
教室
は入れずれられない、交通
生